

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 2章1～5節>

キリスト教信仰の一番大事なことは何か？ それが語られている箇所です。

①コリントで最初に信仰を持った人たちは、パウロの何に魅かれたのか？

「そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした」(3)。パウロが最初にコリントに着いた時のことを言っています。その直前のアテネでの伝道がうまくいかなかったからです。そこで語った説教の何が問題だったのでしょうか？ 聖書と無縁の人たちによく配慮した説教だったのに(使徒言行録17章)。パウロはその結果に悩み、どうしてかを考え、そして辿り着いた答えを持ってコリントに入ったのです。その答えこそが、「神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした」(1)、「あなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていた」(2)です！ これで大丈夫なのでしょうか？ 大丈夫だったのです！ ちゃんと「十字架につけられたキリスト」の深い恵みの意味を理解し、信仰に入る人々が与えられたのです。

②「十字架につけられたキリスト」の意味を追うならここ1章18節～2章5節！

宗教改革者ルターも、この「十字架につけられたキリスト」にこそ、1500年の間にいつの間にか埋もれてしまった、キリスト教の救いの核心部分が秘められていることを再発見しました。つまり、神の子イエス・キリストが十字架にかかって死んで下さり、死んだイエスを父なる神がよみがえらされたとき、そこに私たちが愛し、私たちの罪を赦し、私たちに「共に生きよう」と呼びかけて下さる、憐み深い神様を発見したのです！ キリスト者になるとは、この神様のこの恵みの出来事に驚き、人生をこの神様と共に新たに歩み出す具体的な行為なのです！ 1章18節～2章5節は、まさに、そのことをパウロが熱を込めて吐露している箇所なのです(その魅力は説教で説明)。

③福音の宣教は「神の宣教：ミッシェ・デイ」

「(神の) 秘められた計画」(1)の原語は「ミステリオン」(奥義、ミステリーの語源)です。福音の伝道で一番大事なことは、福音の伝道は神の奥義であり(1)、神の力によってなされていくものだということです(4)。ですから伝道は、私たちがいかに伝えるかのハウツーに力を注ぐのではなく、伝える内容の凄さ、すなわち、神の恵みの凄さをまず私たち自身が聖書から深く学び、感謝と喜びを持って生きて行くことが大事なのです。まさに神様のミステリーです！